

東福岡自彊館中学校

所在地 : 福岡県福岡市
 生徒数 : 246名

国語科 樋口 綾香 様



現状・課題

- 学習指導要領の施行を受けて、思考・判断・表現力、特に表現力の育成が課題に挙げた。
- 普段の学校生活の中で、コミュニケーションの行き違いによる生徒同士のトラブルが散見された。トラブルを未然に防ぐためにも、自分の思いを論理的に発信する力の必要性を感じていた。

文章検導入のポイント

<教材>

- 学習指導要領の対応に加え、学校生活、ひいては大学進学後や社会で求められる論理的コミュニケーション力を育成できる。
- 『文章力ステップ』は章ごとの学習内容が明確であり、網羅的な指導が可能。また、これまでの本校の取り組みと関連付けることができる。

【既存取り組みとの連携例】

- ・行事ごとの作文⇔第5章「意見文」
- ・職場体験後のお礼状作成⇔第4章「手紙文」
- ・高校入試対策(社会・理科)⇔第2章「資料分析」

<検定>

- 学年で明確かつ共通の目標を掲げることで、生徒全体の文章力の底上げに繋がる

導入形態

- 対象 …中学校全員
- 目標級 …中学1年生：4級
 中学2年生：3級
 中学3年生：準2級
- 指導概要…長期休暇中の課外(計10コマ程度)
- 教材 …『基礎から学べる！
 文章力ステップ 4級～準2級』
 文章読解・作成能力検定
 4級～準2級

※指導内容の詳細は裏面

文章検導入の効果

- 生徒の文章作成に対する抵抗感がなくなった。また、文章作成における事前準備(「ネタ出し」等)の重要性を認識し習慣づけられるようになった。
- 検定に合格した生徒は自信をつけることができた。同時に、不合格だった生徒は自身の文章力の現状を客観的指標をもとに把握することができた。

<既存取り組みとの連携>

- 職場体験に加え、講演や社会人インタビュー後に作成するお礼状の質が向上した。
- 資料分析の学習内容を社会科の教員と連携し、高校入試対策や社会・時事問題に関する検定試験の対策に活かしている。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			夏期課外での指導(6~8コマ)						冬期課外での指導(3~5コマ)		文章検実施

※2022年12月の取材内容に基づきます。

指導内容（詳細）

【1】夏季休暇1か月前：第1章（語彙・文法）を自学にて学習

- 文章カステップを生徒全員に配布。第1章を自学課題として取り組ませる。単に問題を解かせるだけでなく、正解以外の選択肢や「考えるヒント（※）」に記載されている語彙の意味を調べさせる、「考えるヒント」が問題にどう反映されているかなどを教材に書き込ませるなどして、学習効果の最大化を図っている。

（※）考えるヒント…文章カステップ内に記載されている、学習を補助するコメントのこと。

【2】夏季休暇：第2章～第4章（資料分析／文章読解／手紙文）を夏期課外にて指導

- 授業時間の約8分間を使って見開き2ページの問題を解かせる。
- その後、先生にて問題を解説。読解問題の解説はICT機器の画面共有を利用して重要となる個所に線を引くなど、生徒に「解き方」を見せている。このサイクルを1セットとし、以降第2章～第4章が終わるまで繰り返す。
- 第5章（意見文）は、時間があれば取り組ませる。難しい場合は夏期課外後～夏季休暇終了までの自学課題として取り組ませる。

【3】冬季休暇：第5章（意見文）を冬期課外にて指導

- 冬期課外の1週間前に、事前課題として意見文を2題作成させる。テーマは文章検の過去問題を利用し、ICT機器を通じて提出させる。
- 冬期課外にて意見文作成のポイントを指導。

<ポイント例：テーマに必要な情報収集（ネタ出し）>

- 文章作成の事前準備として、テーマに関連する情報（作成における材料）を出させる。
- 生徒が多く材料を出せるように、また反証を意識できるように、テーマに関するメリット・デメリットを分けて考えさせている。

テーマ例：お年玉を自分で管理するか／親が管理するか

	自分で管理する	親が管理する
メリット	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~
デメリット	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~	・ ~ ~ ~ ・ ~ ~ ~

- そのポイントをもとに、事前課題で作成した意見文を生徒自身で推敲させる。推敲後はICT機器を通じて先生に提出させる。

【4】3学期：文章検を受検

- 1月に文章検を全校実施。